



遠藤 標野さん(44)
(岡野)
勤めながら、父の農業を手伝っている。自慢の野菜は、今が旬のブロッコリー。

田中 大樹さん(37)
(上延沢)
農業研修や海外などで農業を学び、町内で農地を借りて営農中。自慢の野菜は、今が旬のニンジン。

辻 理孝さん(49)
(金井島)
会社を退職後、町内の農家で学び本格的に専業農家となる。自慢の野菜は、弥一芋。今は大根が旬。

宮上 透さん(28)
(金井島)
町内の農家の元で学びサラリーマンを辞め、専業農家となる。自慢の野菜は、ズッキーニ。今は菜花が旬。

「農業の今」

特集 開成町の農業

開成町は昔から農業が盛んでしたが、現在、農業に従事している人は減っています。そんな中、開成町で農業をしていくことを決めた方たちがいます。

今月は、開成町で農業を営む若手農業者の皆さんを特集します。

それぞれのスタイルが違っておもしろい

—どんな農業をしているのか教えてください。

辻 約40品種の野菜を少量ずつ栽培しています。なるべく農薬や化学肥料を使わないようにしています。

田中 私は、有機栽培に取り組んでいます。実は、大人になるまで畑を見ても実が付いていなければ、どれがナスかも分からなかったくらいでした。農業の知識は難しそうだなと思って、有機栽培を教えてください。のがきっかけです。

宮上 お二人は多品種の栽培に取り組んでいますね。僕は、自分の経験の浅さなどもあり、栽培する品種を限定して、それぞれを大量生産しています。

辻 それぞれのスタイルが違ってお

と思っています。根本はやはり農業が好きなんです。

自分の工夫次第で幅が広がる。

—農業の魅力とは。

宮上 「農業」は一つの職業ですが、シイタケを栽培している人とレタスを栽培している人は違うし、同じキュウリでも露地栽培とハウス栽培では技術は異なりますね。それぞれ特色があり面白いですね。

辻 自分が出荷する野菜には、必ず商品名、生産地、自分の名前を表示したラベルを付けています。ラベルには、ブログのURLを記載して、そこで食べ方なども紹介しています。手間もコストもかかりますが、朝市などで「辻さんの作った野菜を食べているよ」と声をかけてもらえることがやりがいにつながっています。

田中 生産者として、消費者と直接つながりを築いて、「田中さんが作る野菜がいい」と言ってもらえることが目標であり、農業の魅力でもあると感じています。

宮上 田中さんのように個人を指名して購入してくれる消費者がいるのは格好がいいと思います。

辻 個人に販売するのは手間がかかるけど、反応があるのは励みになり



辻 理孝さん

もしいですよね。

宮上 同じ面積でも、1種類の野菜を栽培するか、10種類の野菜を栽培するかは違いがあります。色々な野菜を栽培した方が楽しそうです。

遠藤 私は皆さんと違い、昼間は別の仕事をして、朝夕や休日に家の手伝いで農業をしています。農家の後継ぎに生まれて、田んぼで遊んだり、畑にお弁当を持って行き、家族で食べたりという子どもの頃の楽しい記憶もあり、いつかは農業をやりたい

ますね。

遠藤 栽培して、予想以上に良いものが収穫できたときのうれしさは格別です。農業がどんどん楽しくなっています。さらに農業が好きになっていき、さらに農業ができるスタイルが確立できれば、さらに農業が楽しくなるのではないかと思います。

辻 私も別の仕事をしながら農業をしていた経験がありますが、農業にはサラリーマンの経験を生かせることもたくさんあります。農業はすべて自分でやらなければいけないですが、自分の工夫次第で幅が広がっていくことも魅力の一つです。

大規模生産地にはない消費者の近さを生かしたい。

—開成町で農業をすることについてはどのようにお考えですか。

宮上 開成町では、若手農業者がお互



田中 大樹さん